

離島における地域共生型福祉複合施設の研究

—医療・就労・交流の重層化による「日常に組み込まれた福祉」の構築—

建築学専攻
プロジェクトデザイン研究

DZ20014
指導教員

みやぎ ももか
宮崎 百花
岡野 道子

序章 | はじめに

0-1. 研究背景と問題意識

日本社会が直面する少子高齢化、医療・福祉人材の不足、社会的孤立は、地理的・制度的に周縁化されやすい離島において、より早く、より濃く顕在化している。医療アクセスの脆弱性、就労機会の乏しさ、そして人と人が交わる場の希薄さは、個別の課題としてではなく、相互に絡み合いながら地域の持続性を崩す連成的な問題として現れる。制度上の支援が整っていても、アクセス・人材・運営規模の制約によって実生活まで届かない「福祉の空白」が生じる点は、本土以上に深刻である。一方で離島には、日常的な助け合い(共助)、顔の見える近接的な信頼関係、祭礼や共同作業・物々交換に根差した厚い生活文化といった関係資本の基盤が息づいている。こうした社会的基盤と建築・場のデザインを結び直すことにより、制度の縦割りを超えて暮らしを支える可能性が開けると考える。

0-2. 研究目的と課題

本研究は、離島という構造的な孤立を抱える地域において、医療・就労支援・地域交流という生活の基盤を支える三要素を一体的に担保する複合施設を提案することを目的とする。医療面では「診療所と日常的な健康相談機能」、就労支援では「福祉的支援と地域産業を掛け合わせた軽作業空間」、交流では「世代・属性を超えた居場所的機能」を、空間的・運用的に重ね合わせる。これにより「多機能×共助×日常性」をキーワードとした再編成を試みる。

0-3. 本研究の構成と手法

本研究は、(1)離島の課題構造と先行事例の整理、(2)全国離島データの評価・類型化にもとづく設計提案、の二段階で構成する。(1)では医療・就労・交流の課題を整理し、複合拠点の成立条件を抽出する。(2)では生活困難度・災害リスク・交流軸の三軸評価から計画条件とタイプ別方針を導き、敷地選定を経て設計提案へ接続する。

第1章 | 理論的背景と現状分析

1-1. 離島における医療・就労・交流の構造的課題

離島では、少子高齢化と人口流出が進み、生産年齢人口の縮小により医療需要増 × 担い手不足 × 交通の脆弱化が同時発生する(図1)。診療所や介護拠点は需要があっても規模要件を満たしにくく、就労機会も限られる。結果として、医療アクセス・働く場・交流の場という生活基盤が連鎖的に弱り、地域の持続性を損なう。

人口増減率	件数
減少 20%以上	3
減少 10-20%	57
減少 10%未満	57
増加	7

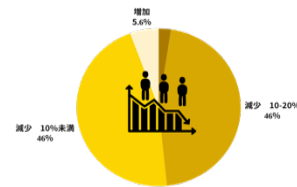


図1 離島の人口増減率

1-2 地域共生拠点/医療福祉複合の先行事例

地域共生拠点・医療福祉複合の先行事例を参照し、複数機能を束ねる際に有効となる空間構成、運用の担い手、地域連携の枠組みを整理する。特に、医療・福祉・交流が「用事」に留まらず、日常的に立ち寄れる関係形成の場として成立する条件を抽出し、以降の設計方針へ接続する。

1-3 地域共生拠点・就労支援の実態

全国には、医療・福祉・交流機能を束ねる拠点が広がりつつあり、通院・健康相談と日常生活を連続させる実践も各地で見られる。しかし多くは依然として「用事が終われば帰る」単発利用にとどまり、関係形成の持続性や生きがい創出、地域内での役割付与が弱い点が課題である。地域活動支援センターは、障害のある人の創作活動と住民交流を媒介する「地域のハブ」として機能し、就労継続支援A・B型事業所では、農業・工芸・物販など地域資源と接続した作業が展開されている。とりわけ離島ではB型の立地が観光地近接に偏り、特産加工・販売・清掃等の季節需要に依存する傾向が強い。一方で、農福連携や工芸、公共空間の維持管理といった“地場資源型”プログラムは、季節変動が小さく、住民参加と活動継続性が高いという特性が確認できる。(図2)

エリア(産地)	事業所数	主な経営カテゴリ
佐渡島/新潟県佐渡市	B型 9件	食品製造/縫製/雑貨/清掃・車列
勝島/島根県隠岐郡4町	B型 5件	菓子・惣菜製造/クリーニング/木工・菓子作り/農園
岩手島/長崎県壱岐市	B型 4件	陶芸・パン/施設外清掃・除雪/海産物採掘
対馬島/長崎県対馬市	B型 3件	施設・ホテル清掃/公園整備/簡易修繕等の請負
五島列島/長崎県五島市	B型 10件	ペーパー/手作り・農作業/補修・菓子詰め/リサイクル
奄美大島/鹿児島県奄美市	B型 16件	カフェ調理・接客/菓子づくり/宿泊施設業務
徳之島/鹿児島県徳之島町	B型 1件	農福連携(和牛繁殖)/補修・花卉/軽作業
与島島/鹿児島県与島町	B型 1件	製菓/菓糖・モスク加工/農務/リサイクル
宮古島/沖縄県宮古島市	B型 16件	カフェ・調理/竹入れ/清掃・ボスティング等
石垣島/沖縄県石垣市	B型 14件	焼菓子/木工/縫製/役員(アタン・月給込み)
利尻島/北海道利尻富士町	B型 1件	旗製作ほか少額発注加工
礼文島/北海道礼文町	B型 1件	軽作業(農水産補助/リサイクル等)
伊豆大島/東京都大島町	B型 1件	パン・菓子/縫製/清掃
八丈島/東京都八丈町	B型 3件	農産加工/パン製造/清掃

図2 主な離島の事業所数・事業所名

1-4 全国離島の人口動態の俯瞰・探索的分析

国勢調査(R2人口・H27→R2増減率)で有人離島を俯瞰すると、人口減少が一般的だが、増加・維持に近い島も少数ある。そこで神津島・父島/母島(維持系)と江島・瀬底島(増加系)をケースとして、背景を仮説整理した。増加系は橋梁接続と雇

用増による社会増、維持系は観光・公的部門に加え住宅供給や教育、関係人口が下支えする構造が示唆される。人口動態はアクセスだけでなく、雇用・住宅・教育・関係人口の複合で成立するため、次章の評価軸設計に接続する。

第2章 | 全国離島データの構築と評価軸の設計

2-1. データと対象の整理

国勢調査、離島統計年報、各自治体公開データ、国土数値情報等を用いて、全国の有人離島かつ人口500人以上124島を対象とし定量分析を実施した。

2-2. 基本指標の定義

基本指標は、生活条件・災害条件・交流条件を捉えるために設定する。生活条件はアクセス環境および人口動態、医療・福祉・教育の環境量で構成する。災害条件は津波浸水を中心に、洪水・高潮・土砂災害等を含めた自然災害リスクで構成する。交流条件は、年間訪問者数T、年間延べ宿泊数H、常住人口Pを用い、T/P（観光訪問強度）、H/P（宿泊深度）、H/T（平均宿泊日数）を算出する。（図3）

項目	単位	指標	算出式	単位	指標	算出式	単位	指標	算出式	単位	指標	算出式
生活条件	%	生活条件	生活条件	$\frac{H}{T}$	%	生活条件	生活条件	$\frac{H}{T}$	%	生活条件	生活条件	$\frac{H}{T}$
			生活条件	$\frac{H}{T}$			生活条件	$\frac{H}{T}$			生活条件	$\frac{H}{T}$
			生活条件	$\frac{H}{T}$			生活条件	$\frac{H}{T}$			生活条件	$\frac{H}{T}$
			生活条件	$\frac{H}{T}$			生活条件	$\frac{H}{T}$			生活条件	$\frac{H}{T}$
災害条件	%	災害条件	災害条件	$\frac{H}{T}$	%	災害条件	災害条件	$\frac{H}{T}$	%	災害条件	災害条件	$\frac{H}{T}$
			災害条件	$\frac{H}{T}$			災害条件	$\frac{H}{T}$			災害条件	$\frac{H}{T}$
			災害条件	$\frac{H}{T}$			災害条件	$\frac{H}{T}$			災害条件	$\frac{H}{T}$
			災害条件	$\frac{H}{T}$			災害条件	$\frac{H}{T}$			災害条件	$\frac{H}{T}$
交流条件	%	交流条件	交流条件	$\frac{H}{T}$	%	交流条件	交流条件	$\frac{H}{T}$	%	交流条件	交流条件	$\frac{H}{T}$
			交流条件	$\frac{H}{T}$			交流条件	$\frac{H}{T}$			交流条件	$\frac{H}{T}$
			交流条件	$\frac{H}{T}$			交流条件	$\frac{H}{T}$			交流条件	$\frac{H}{T}$
			交流条件	$\frac{H}{T}$			交流条件	$\frac{H}{T}$			交流条件	$\frac{H}{T}$

図3 観光交流指標

第3章 | 全国離島データからのタイプ分類

3-1 評価軸の設計

評価軸は、A：生活困難度、B：災害リスク、E：交流軸の三軸で構成する。

3-2 生活困難度・災害リスク

A：生活困難度は生活基盤の脆弱性、B：災害リスクは被災可能性と復旧制約、E：交流軸は外部との結節の量と深さを表す指標として位置付け、計画プログラムの重心設定に用いる。

3-3. 交流軸の分布と4タイプ分類

交流軸（E）は、T/P（観光訪問強度）とH/P（宿泊深度）の組合せにより4タイプ（高高/高低/低高/低低）へ分類する。これにより、外部接点の量と深さが異なる島を同一視せず、必要なプログラム構成の方向性を検討可能にする。

3-4 タイプ別の示唆

交流指標は「外部との結節の量と深さ」を示し、プログラムの重心を決定する。（図4）

観光・交流指標 (T/P・H/P) による島のタイプ分類		
パターン	状況	意味・設計上の示唆
①T/P高・H/P高	観光が盛んで宿泊も多い	関係人口を育てやすいが、観光依存・季節変動リスク大。 →観光系(カフェ・物販)・防災・福祉併設が有効。
②T/P高・H/P低	日帰り中心、滞在が浅い	接触が多いが関係が浅い。→地元住民×観光客の交流拠点(体験型・展示型)が有効。
③T/P低・H/P高	観光客は少ないが滞在が長い	小規模で密な関係形成が可能。→滞在型支援施設(宿泊併設型・リトリート)に向く。
④T/P低・H/P低	閑静、観光が弱い	外部接点が少ない。→医療・就労・交流機能を「内部完結」型で強化。

図4 観光・交流指標による島のタイプ分類
医療・就労・交流の比重や、観光接点の持たせ方、日常利用の厚みづけの方向性を規定する。

T/P×H/Pの類型化により、①高高：関係人口形成に適するが観光波動の影響が大きい、観光接点+診療/防災併設で季節変動を平準化、②高低：日帰り主体のため、体験・展示等で滞在化を促し、内需機能を併置、③低高：少数だが滞在深度が高く、小規模滞在支援(宿泊併設・リトリート)が有効、④低低：外部接点が希薄で、内部完結型の基幹整備(医療・就労・交流の核)が先行する、という設計指針が導かれた。

3-5 候補島の抽出

A：生活困難度、B：災害リスク指標の結果をもとに合計値が上位1割の島9つに絞り、データシートを作成(図5)。既存施設の有無、地域住民の活動状況、島外からのアクセス性などを確認し、最終的な敷地を決定する予定である。福祉拠点が孤立するのではなく、島全体とつながり、協働やネットワークが生まれるような立地を重視する。

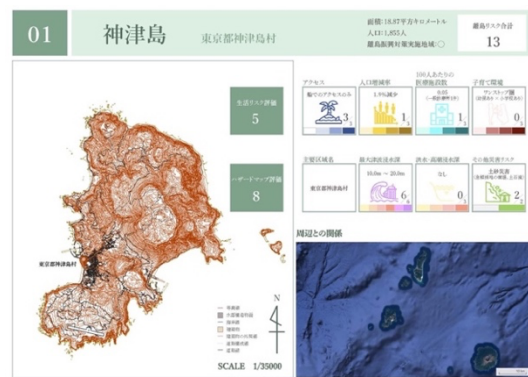


図5 離島データシート

第4章 | 設計提案

設計提案は、T/P×H/Pの類型化にもとづき、②高低=熊本県維和島、③低高=東京都神津島、④低低=熊本県樋島を敷地として設定し、各島の地域特性を設計条件に反映して医療・就労・交流を統合する拠点を具体化するものである。拠点には「居られる場」「役割をもてる場」「出会える場」を重ね、現地調査で把握したニーズに応じて機能構成と空間の使い方を調整する。配置・動線・空間の重なりを通じて行為が自然に交わる構成を目指し、住民が立ち寄りたくなる居場所性と災害時の拠点性を併せて担保する。

第5章 | 終わりに

現地調査と設計検討を重ねて具体的な空間像を深化させ、福祉・医療・地域活動が日常的に交わる融合拠点として、他の離島にも応用可能なモデル提案へ展開できることが期待する。

参考文献

- ・介護サービス情報公表システム(2024)
<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>
- ・ハザードマップポータルサイト(国土地理院)(2024)
<https://disaportal.gsi.go.jp/>
- ・Ritokei「つくろう、島の未来」Webサイト(2024)
<https://ritokei.com/tsukurou/>
- ・国土交通省(2024)『国土数値情報ダウンロードサービス』
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>